

平成25年度「医療・救急部会」のとりまとめ

第1回 部会

日時

平成25年8月6日(火) 19時～

議題

- 1 あいさつ(昨年度の振り返りと今年度の目標と取組・自己紹介)
- 2 川崎市の災害時医療体制の考え方、取り組み状況について
- 3 市立川崎病院の災害医療体制について

内容

【1 あいさつ】

- (1)平成24年度に整理された課題
- ・災害時にも有効な通信手段の確保
 - ・情報の収集、発信の窓口の明確化
 - ・医療救護所の設置について
 - ・市立病院への患者集中の懸念

(2)今年度の目標と取組

《目標》市の医療体制の再構築に即した地域医療体制の構築

《取組》災害時の情報伝達についての講座の企画

災害時医療体制再構築の議論を踏まえた、課題解決に向けた検討

【2 川崎市の災害時医療体制の考え方、取り組み状況について】(健康福祉局医療施策推進室)

《現状》現在の災害時医療体制は、医療救護所を中心に傷病者を受け入れて、必要に応じて災害拠点病院や一般病院へ搬送

《課題》①医療救護所の立ち上げに時間がかかる。施設面で医療機能を果たせるか。

②被災患者は、病院・診療所を目指す。

③情報収集と資源配分の調整機能を誰が果たすのか。

《対応策》①病院・診療所の役割を明確にし、その機能を活かす。

②医療救護所は目的を明確にした医療救護所とする。

③災害医療コーディネーター(チーム)を設置する。

【3 市立川崎病院の災害医療体制について】(川崎市立川崎病院救命救急センター)

(1)災害医療体制のポイント

- ①来院搬送されることを許容する。
- ②転院搬送、後方搬送の体制整備

(2)整備・要望事項

- ①病院・医院等との新災害体制の構築
- ②搬送手段の確保、充実
- ③災害時の需要供給情報の共有(区役所との連携)

(3)DMATの初動訓練の様子と説明

※DMAT・・・災害派遣医療チームで、医師、看護師、業務調整員(救急救命士、薬剤師、事務員等)で構成され、地域の救急医療体制だけでは対応出来ないほどの大規模災害や事故などの現場に急行する医療チーム。

第2回 部会

日時

平成25年10月12日(土)8時30分～

内容

川崎市立川崎病院災害医療対応訓練への参加

訓練

《設定》「平日の午前中に川崎市南部直下地震が発生、川崎区では震度6強、津波の心配はなし。」
災害対策本部の設置し、関係機関との連携
トリアージエリアでトリアージをし、歩ける方は、競輪場へ歩いてもらい診療を受けることができるかを
実証実験

第3回 部会

日時

平成25年11月21日(木) 19時～ 川崎市役所第3庁舎総務局危機管理室会議室

議題

- 1 川崎市の防災行政無線について
- 2 大規模災害発生時の医療関係情報収集・伝達フロー図(たたき台)について
- 3 市立川崎病院の災害医療対応訓練について(報告)

内容

【1 川崎市の防災行政無線について】(総務局危機管理室)

(1)防災行政無線及び防災関係システムの整備状況

- ・防災行政無線の種類と概要、導入している施設、場所等の構成概要
- ・総合防災情報システムの各種機能の説明

(2)災害用優先電話についての説明

- ・大規模災害時は約90%以上の制限が行われることがある。
- ・「発信」は優先を受けるが、「着信」については通常電話と同じ取扱い。

【2 大規模災害発生時の医療関係情報収集・伝達フロー図(たたき台)について】

(健康福祉局医療施策推進室)

- ・各区、災害拠点病院への情報伝達のフロー図(たたき台)により、今後構築していく。

【3 市立川崎病院の災害医療対応訓練について(報告)】(川崎市立川崎病院救命救急センター)

- ・川崎区医師会・保健福祉センターも実際の訓練に参加

《訓練を通しての課題》

- ・情報統括の必要性
- ・診療部門を応援してくれる医師の組織化や必要な薬剤や資材の備蓄の想定と情報伝達の整理

平成25年度「医療・救急部会」のとりまとめ

第4回 部会

日時

平成26年2月20日(木) 19時～

議題

1 今年度の振り返りと来年度に向けての課題(展望)

内容

①川崎・臨港消防署

《取組状況》

- ・石油コンビナート区域内の事業所との災害時における合同練習の実施
- ・消防キッド(ホース等)の町会配布(全市は3か年で配置予定)

《課題・展望》

- ・引き続き、事業所との合同訓練の実施と危険物施設の耐震化の促進の依頼

②市立川崎病院

《取組状況》

- ・災害時医療対応訓練における区役所、区医師会、消防署との協働、川崎病院・神奈川DMAT合同訓練
- ・災害時備蓄の充実、院内災害マニュアルの大幅な見直し、再編
- ・富士見スマートシティ事業への参画

《課題・展望》

- ・災害訓練や整備において、区関係機関との関わり・機会を増やす。
- ・災害医療拠点病院として、亜急性期～慢性期の災害医療対策
- ・医療情報の集約化、一元化とシステム構築、災害時患者搬送能力の整備強化

③総務局危機管理室

《取組状況》

- ・地域防災計画等の修正
- ・避難対策の充実、臨海部防災対策の推進、災害に強いまちづくりの推進
- ・防災行政無線のデジタル機器への再整備

《課題・展望》

- ・災害対策基本法の改正等を踏まえた地域防災計画の修正や、各種審議会議論結果を踏まえた対策の検討
- ・避難所等の機能強化(備蓄物資の計画的確保、独立型備蓄倉庫の整備、マンホールトイレの整備など)
- ・さらなる臨海部防災対策や災害に強いまちづくりの推進

④健康福祉局医療施策推進室

《取組状況》

- ・医療救護体制の再構築(今後も継続的に取組む)

《課題・展望》

- ・病院、診療所の役割の明確化と医療機関中心の医療救護体制へ
- ・災害医療コーディネーターの設置(調整機能を果たす、本市地域医療と救急医療の専門家チーム)

⑤川崎市病院協会

《取組状況》

- ・川崎市防災訓練への参加
- ・川崎区危機管理協議会及び同医療救急部会出席後、その結果について川崎市病院協会総務委員会、災害・施設対策委員会にて報告
- ・災害対策施設見学の実施(発電時の排熱を給湯に利用、太陽光エネルギーの発電システム)

《課題・展望》

- ・上記のとおり引き続き取り組んでいく。

⑥川崎市看護協会

《取組状況》

- ・災害医療活動に関する講演会、研修会の開催
- ・川崎市総合防災訓練への参加
- ・理事会にて、災害時の人材確保などについて検討

《課題・展望》

- ・看護協会事務局内(4か所の訪問看護ステーション)での災害訓練の実施し、対応を具体化
- ・災害時看護支援要綱、具体的行動内容などの定期的検討⇒理事会にて
- ・定期的備蓄用品の点検補充、専用の防災服の検討

⑦薬剤師会

《取組状況》

- ・各団体との連絡方法を考えて、連絡網を確保する。

《課題・展望》

- ・それぞれ災害に対してどのような準備をしているかを開示してもらい、それを利用し、行動マニュアルの作成

⑧川崎区歯科医師会

《取組状況》

- ・災害時優先携帯電話を県下300人使用(神奈川県歯科医師会)
- ・川崎市総合防災訓練に参加、神奈川県警察協力歯科医研修会に参加など(川崎市歯科医師会)

- ・歯科医師会会員間連絡に「web171」の検討(川崎区歯科医師会)

《課題・展望》

- ・災害時の情報連絡、情報の共有化
- ・災害時の地域歯科医師会の役割の検討と確立

⑨川崎区医師会

《取組状況》

- ・川崎区医師会員にアンケート実施のより、災害時医療体制を構築するためのデータ収集
- ・川崎市医師会災害時救護活動マニュアル策定に協力、地域防災拠点の担当の決定

《課題・展望》

- ・災害時の各分担をアンケートをもとに、もっと現実に即した体制にしていく。
- ・市立川崎病院での災害時対応訓練への積極的参加、トリアージを実際体験し、意識の向上を図る。

⑩川崎区役所保健福祉センター

《取組状況》

- ・「医療・救急部会」の開催
- ・災害時区役所衛生課活動指針の作成

《課題・展望》

- ・区役所「医療衛生班」として、医療と衛生が融合した職員マニュアルの作成

「医療・救急部会」平成26年度に向けての展望

- 健康福祉局の医療救護体制の再構築を注視しながら、区の「医療救急部会」の役割について検討
- 市立川崎病院の災害時医療対応訓練へ区役所職員の参加を促し、職員の意識向上と連携強化を図る。
- 川崎区内病院との連携強化に向けての取組